

日中40周年プロジェクト 四川省SCITEで商談会を

広告

文化観光交流通じ相互協力の新局面へ 四川省樂山市が東京でセミナーを開催

日本との友好関係を強調

中国駐東京観光代表処と四川省樂山市人民政府は7月20日、東京・西新宿の京王プラザホテルで観光セミナーを開催しました。



樂山市の張市長:樂山市の共産党委員会副書記を務める張市長

「乐山観光」のグローバルマーケティングを推進しており、今回の観光説明会はその日本プロモーションという位置付けで開かれたものです。

説明会の冒頭で挨拶に立った樂山市の張市長は、「乐山は交通の便も良く、観光資源も豊富であると同時に、ビジネス環境にも恵まれていることから、日本との間では友好的な経済貿易交流と文化観光交流が長年にわたって続いている」と強調。同市長は、日本でも文豪として知られる郭沫若が樂山出身であることにも言及し、日本へ留学して第二高等学校予科で日本語を学んだ後、岡山の第六高等学校を経て九州帝国大学医学部を卒業した郭沫若が、樂山と日本との友好交流の礎を築いたことも紹介しました。



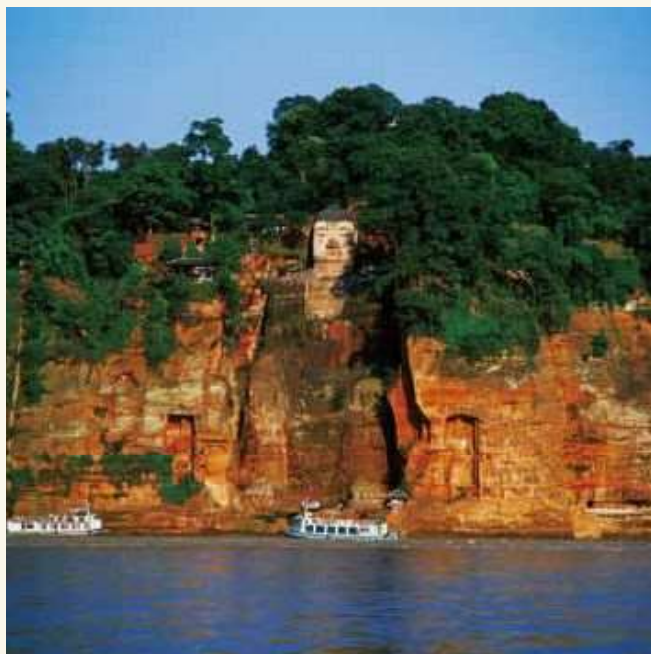
王首席代表:セミナーで説明する中国駐東京観光代表所の王偉首席代表

張市長によると、樂山は中国内外の36に及ぶ都市と友好協力提携を構築しているほか、友好往来や交易関係を維持している国の数も110カ国に達しています。同市長は、「日本の国内各地とも広い分野において、より深く交流するとともに、より高いレベルでの協力を目指し、文化観光交流をはじめ、商業や貿易などを通じて産業の分野でも相互協力の実効性をさらに高め、ウィンウィンの互惠関係に新たなページが加わっていくことを心から期待している」と語りました。

観光博覧会の出展も呼びかけ

また、張市長は今年9月7日から9日までの3日間にわたり、樂山市の峨眉山で開かれる第5回「四川国際観光取引博覧会(SCITE)」に、日本から多くの旅行業界関係者が参加するよう呼びかけています。

SCITEは、「大峨眉国際観光目的地」の建設を提唱する四川省旅遊局が2014年から開催している博覧会。大九寨環線、大成都、大峨眉、大シヤングリラといった複数のエリアに分かれている四川省の代表的なデスティネーションを



樂山大仏:四川省を代表する観光アイコンのひとつ「樂山大仏」

中国駐東京観光代表処



峨眉山茶道:セミナー会場で披露された峨眉山茶道のパフォーマンス

「大峨眉国際観光目的地」という世界的に影響力のある統一ブランドとし、プロモーションに取り組みというコンセプトがベースになっています。統一ブランドでカバーされるエリアには、世界自然遺産や世界文化遺産をはじめ、多くの有望な観光資源が存在しており、そうした域内の観光資源を統合的なプロモーションを行うことで、四川省における観光産業の発展を目指そうとしています。

今年で5回目を迎えるSCITEは、中国西部で最も影響力のある観光専門の博覧会です。地域からバイヤー・セラー合わせて3000以上の企業・団体が参加、会期中の取引額は3億元以上に及んでおり、日本の旅行業界関係者による積極的な参加が期待されています。